

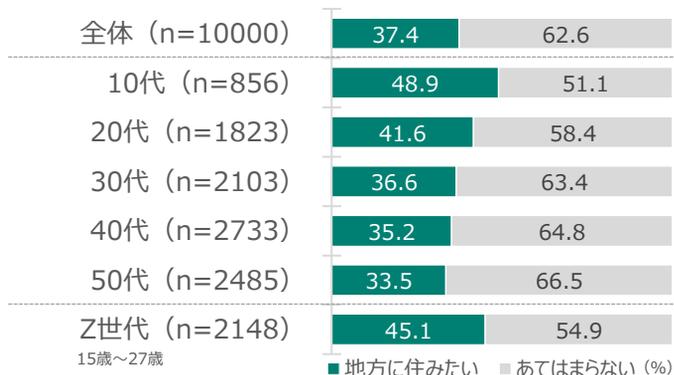
■ 10,000人のうち、3人に1人は「地方暮らし」を希望、10代は約半数にも

10代~50代の男女10,000人を対象に、農業に対する調査を行いました。

地方移住や田舎暮らしが注目されていますが、地方暮らしに対する意向を聞くと、3人に1人以上が「地方に移住したい・地方に住み続けたい」(37.4%)と答えました。年代別で見ると、10代が48.9%と最も高く、15歳~27歳のZ世代も45.1%と高くなっています【図1】。

【図1】 地方暮らしへの意向

Q. 今後、地方に移住したい、または地方に住み続けたいですか？



■ 農業未経験者のうち、学生の約3割が就農意向、副業・兼業を考える人は4割強も

調査対象10,000人のうち農業未経験者の8,947人に、今後、農業をやってみたいかと聞くと、23.2%が「農業をやってみたい」と答え、中でも10代は28.5%、Z世代は26.9%と高くなっています【図2】。

また、農業未経験者のうち、就職意向がある学生641人に、就職先として農業を選ぶ可能性を聞くと、28.1%が就農の「可能性がある」と答えました【図3-1】。

同様に、今後、副業や兼業をする意向がある2,874人に聞くと、42.8%が農業に携わる「可能性がある」と答えました【図3-2】。

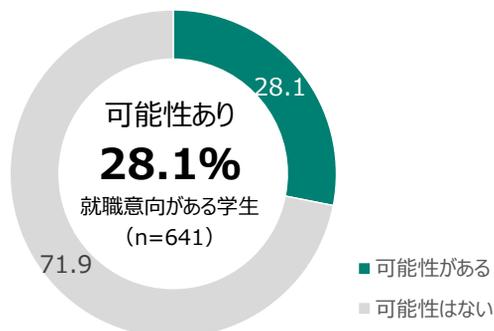
【図2】 農業未経験者の農業体験意向

Q. 今後、農業をやってみたいですか？



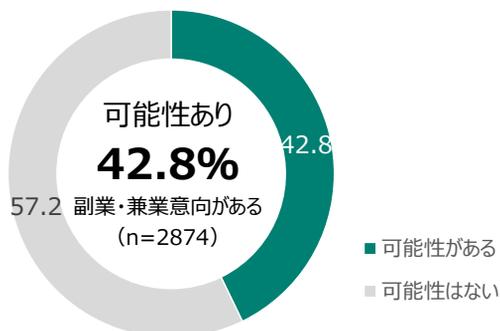
【図3-1】 就職意向のある学生に聞く
今後の就農意向

Q. 今後の就職先としての農業は？



【図3-2】 副業・兼業意向がある人に聞く
今後の副業・兼業としての農業

Q. 今後の副業・兼業としての農業は？



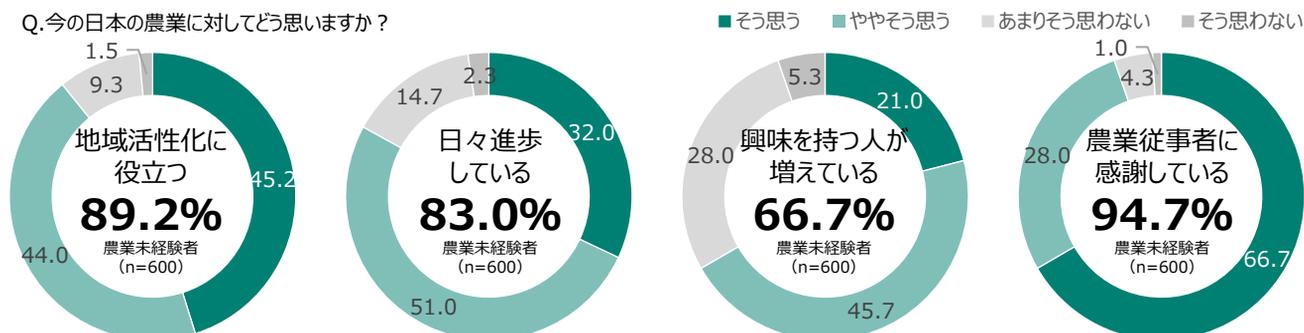
全国10,000人調査の対象者の中から、農業経験はないが農業に興味があると答えた600人、および、農業従事者200人(農業従事5年未満100人、5年以上100人)に、農業に関する意識や実態について詳しく聞きました。

■ 農業未経験者の農業イメージはポジティブ

まず、農業経験はないが農業に興味があると答えた600人に、今の日本の農業に対するイメージを聞きました。すると、89.2%が「農業は地域活性化に役立っている」、83.0%が「日本の農業は日々進歩していると思う」、66.7%が「農業に興味を持っている人が増えていると思う」など、農業に対してポジティブなイメージを持つ人が多くなっています。また、94.7%が「農業従事者に感謝している」と答え、日本の農業従事者が多くの方々に感謝されていることが分かりました [図4]。

【図4】 農業未経験者の農業に対するイメージ

Q.今の日本の農業に対してどう思いますか？

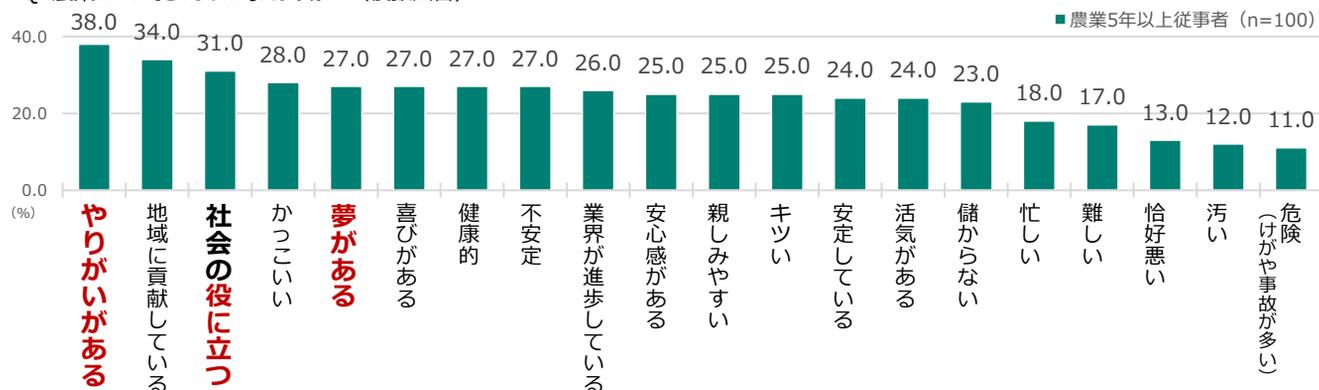


■ 農業は3Y職業 “やりがいがある” “やくにたつ” “ゆめがある”

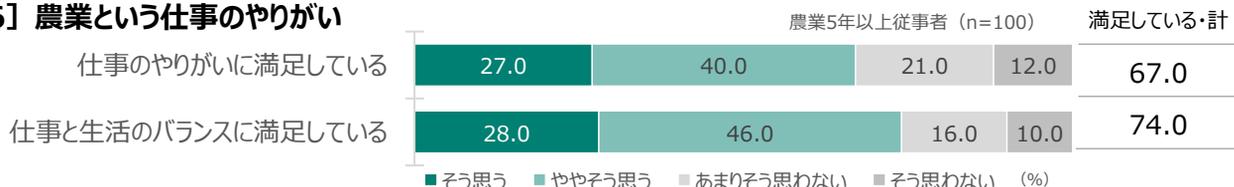
次に、現在農業に5年以上従事している100人に、農業に携わってきた上での実感を聞きました。すると、「やりがいがある」(38.0%)、「地域に貢献」(34.0%)、「社会の役に立つ」(31.0%)、「カッコいい」(28.0%)、「夢がある」「喜びがある」(同率27.0%)などポジティブなワードが上位に挙げられました [図5]。かつて、農業という3K(キツイ・汚い・危険)のイメージで捉えられていましたが、現在では3Kを実感する人は少なく(「キツイ」25.0%、「汚い」12.0%、「危険」11.0%)、やりがいがあって、社会の役に立つ、夢がある3Y職業と考えているようです。そこで、仕事としての農業の満足度を聞くと、67.0%が「仕事のやりがいに満足している」、74.0%が「仕事と生活のバランスに満足している」と答えました [図6]。

【図5】 5年以上農業従事者の「農業」に対する実感

Q. 農業についてどのように考えますか？ (複数回答)



【図6】 農業という仕事のやりがい



■ 農業5年以上従事者が2番目に危惧する「農作業中のけが・事故」

一方、農業未経験者では10番目とギャップあり。けがや事故は想像しづらいと判明

現在農業に5年以上従事している100人に農業に携わる上で心配なことを聞くと、「地震・台風などの自然災害」(49.0%)に次いで、「農作業中のけが・事故」(45.0%)を挙げています〔図7〕。実際に、農作業中のヒヤリハット経験(=事故とはならないまでも、ヒヤッとした経験)を聞くと、実に70.0%が「ヒヤリハット経験がある」と答えています〔図8〕。

一方、農業未経験者に農業に携わると仮定して心配に感じることを聞くと、「異常気象などの天候不良」(72.8%)、「地震・台風などの自然災害」(72.5%)、「不作」(71.5%)、「温暖化など気候変動」(66.7%)が上位に挙げられ、農業従事者が懸念する「農作業中のけが・事故」(38.5%)を心配する声は10番目と低く、農業従事者の回答結果とのギャップがみられました〔図7〕。

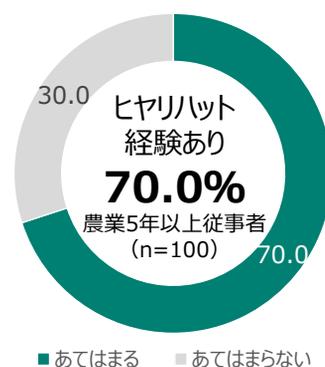
〔図7〕 農業で心配に感じること

Q. 農業に関して心配に感じることは？(複数回答)

農業5年以上従事者 (n=100)			農業未経験者 (n=600)		
1位	地震・台風などの自然災害	49.0	異常気象などの天候不良	72.8	1位
2位	農作業中のけが・事故	45.0	地震・台風などの自然災害	72.5	2位
2位	異常気象などの天候不良	45.0	不作	71.5	3位
4位	不作	42.0	温暖化など気候変動	66.7	4位
5位	温暖化など気候変動	41.0	後継者・労働者不足	65.3	5位
5位	後継者・労働者不足	41.0	伝染病・害虫の発生	61.7	6位
5位	人件費・輸送費の高騰	41.0	値崩れ	49.2	7位
8位	伝染病・害虫の発生	38.0	人件費・輸送費の高騰	44.8	8位
9位	火災などの人為災害	33.0	風評被害	41.0	9位
10位	値崩れ	32.0	農作業中のけが・事故	38.5	10位
	(%)		(%)		

〔図8〕 農作業中のヒヤリハット経験

Q. 農作業中に事故とはならないまでも、ヒヤッとした経験がありますか？



農業従事者あるある

現在農業に携わっている人に、農業に関してよくある出来事やユニークな実態について、自由回答で答えてもらいました。

● 自然に詳しくなる

- 土を触ると収穫量と出来具合がだいたい分かる (男性 38歳 東京都)
- 野菜を見ただけで栄養があるかないか分かる (男性 41歳 愛知県)
- 天気予報に敏感になる (女性 42歳 千葉県)
- 風向きに敏感になったり、天気を予測できたりする (男性 51歳 鳥取県)
- 生物に詳しくなる (女性 53歳 埼玉県)

● カラダが健康になる

- 朝が早い (男性 35歳 青森県)
- 畑の中で食べる弁当はすごく美味しい (男性 39歳 山口県)
- 採れたての新鮮な野菜を食べることができ健康 (男性 46歳 東京都)
- 冬野菜の農家だが鍋の野菜を買ったことがない (女性 53歳 京都府)

● ココロも健康になる

- 朝一人の時間が持てる、大声で歌っても周りに人がいないから聞かれない (女性 43歳 青森県)
- 困っても周りの助けがありなんとかなる (男性 46歳 宮城県)
- 時間の融通が利き会社勤めよりストレスが少ない (男性 48歳 山口県)

● 軽トラ大活躍！

- 軽トラックを見れば、どこの誰かすぐ分かる (女性 43歳 青森県)
- 農業といえば、老若男女問わず軽トラックを運転。普通トラックを使って作業をしている人は非常に少ない (男性 58歳 岐阜県)

農林水産省の発表によると、2021(令和3)年の農作業事故死亡者数は242人でした。就業者10万人当たりの事故死亡者数は10.5人で、全産業の平均1.3人と比べ、高くなっています。

出典：農林水産省 <https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/sizai/230210.html>

■ 実は多い農作業中の死亡事故、農業従事者の約7割、未経験者の96%が「知らない」

農林水産省の発表によると、令和3年の農作業事故死亡者数は242人でした。

この現状を知っているかと聞くと、「知っていた」と答えたのは、農業未経験者では4.0%、農業従事者でも31.5%にとどまりました [図9]。

[図9] 農作業事故の認知

Q. 21年の農作業死亡事故者数242人を知っていましたか？



■ 農作業中のけがや事故を防ぐための体験プログラム、約7割が「体験したい」

農作業で起こるけがや事故を防ぎたいかと聞くと、農業未経験者の96.5%、農業従事者の70.0%が「防ぎたい」と答えました。また、農作業でのけがや事故を防ぐためのプログラムについては、農業未経験者の72.5%、農業従事者の69.5%が「体験したい」と答えました [図10]。

[図10] 農作業で起こる事故やけがの防止意向

Q. 農作業で起こるけがや事故を防ぎたいですか？



Q. 農作業で起こるけがや事故を防ぐためのプログラムを体験したいですか？



農作業中のけがや事故防止のための、農業従事者からのアドバイス

農業従事者からこれから農業に携わる人へ、農作業中のけがや事故防止のためのアドバイスを教えてもらいました。

● 日頃の体調管理を完全に

- 睡眠・食事・運動に気を使いストレスをためない (男性 27歳 長野県)
- 睡眠をきっちり取る (男性 39歳 香川県)
- 日頃からの運動 (男性 44歳 北海道)
- 疲れているときは機械の操作はやめる (男性 44歳 福島県)

● 事前にできることを徹底しよう

- 日々の業務に慣れることなく、常に身の回りの安全を確認 (男性 24歳 東京都)
- 常に作業前に指差し確認をする (男性 28歳 神奈川県)
- 安全装置をつける (女性 31歳 千葉県)
- 事例ムービーを見る (女性 33歳 静岡県)
- 機械の整備を定期的に行い、調子のいい状態で使う (男性 46歳 千葉県)

● 農作業はルールを守って安全に

- 機械のエンジンは止める、使用方法を守る (男性 35歳 茨城県)
- 農作業は一人ではない。2人以上で行う (男性 38歳 東京都)
- 休憩を多く取り入れる (男性 39歳 神奈川県)
- 焦るとろくなことになるので、余裕をもって作業 (男性 40歳 徳島県)
- 脚立の一番上にはのぼらない (女性 56歳 和歌山県)
- ロータリーに巻き込まれやすいので、畑の隅は手で耕す (男性 58歳 岐阜県)

● 農業に向き合うときの基本的な心構え

- 無理しないこと (男性 43歳 茨城県)
- 危険を予測するクセをつける (男性 50歳 福井県)